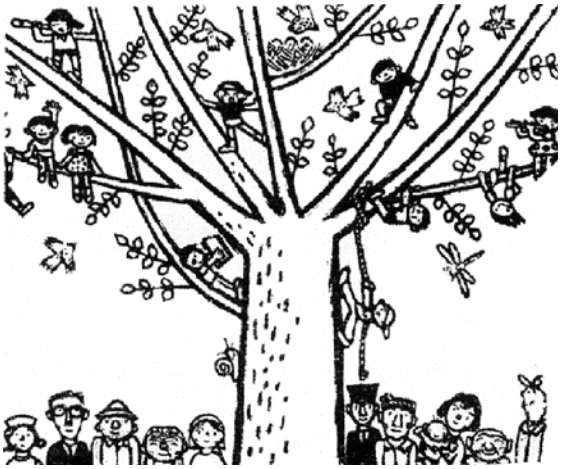


九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース　第16号

2008年7月発行・東久留米「九条の会」

代表者 古田足日・連絡先 鈴木℡ 042-473-9489

http://members2.jcom.home.ne.jp/hgsk9jk/

◆私の主張

『すべての国から戦の火を消して・・』と、唱い続けて40年

今年の八月は、全国保育団体合同研究集会が東京で開かれます。

第40回の記念すべき集会で、有明コロシアムを一万五千人の保育関係者でうめつくそうと、今、その取り組みの最終盤にかかっています。東久留米からも多くの保育士が、その中核となる役割を担って、一生懸命です。

この「合同研究集会」の第一回が、長野県山ノ内町で開かれた60年代後半は、日米安保条約の固定期限終了を目前にした、〝安保破棄〟の運動が大きく広がり、保育関係者の間でも、安保条約の継続は〝戦争と軍国主義の道〟を再び子どもたちに歩ませるとの自覚が高まっていました。

このようなとき、「平和と民主主義を守る統一した意思を表明し、国民的保育運動の新しい出発となるような研究集会を開催したい」との願いで、全国の保育関係団体、父母団体、保育や福祉職員の労働組合が一堂に集まる〝合同研究集会〟が実現しました。

以来、集会の中では、『青い空は青いままで子どもたちにつたえたい・・・』『すべての国から戦の火を消して、平和と愛と友情を・・』と唱い続けています。

私は、保育士8年目で、この集会の第二回に参加しました。こんなにもたくさんの保育士達が、こんなにも子どものことや、保育のことを考えて、ここにつどっているんだ、と感動したことは今でも鮮明です。そして、東久留米の保育は、この「合研」を拠り所に、保育のおかれている状況や悩みを共有し、進んだ実践や研究者から学び、保育で何が大切かをつかんできたと思っています。

〝今目の前にいる子どもの育ちの事実をしっかりつかみ、その思いにより添おう。子どもたちひとりひとりが、おとなから愛されていると実感し、自分を大切に、そして、仲間を大切に〟、と日々、保育の中で願う事と、〝すべての国から戦（いくさ）の火を消して〟、子どもの今と未来を守ろうという願いは、保育士の内面でも実践的にも結びつかざるをえないのです。

『第40回合研』成功に向けて共に取り組む中で、この願いを、さらに確信にし、広げられたらと思います。

そして、『憲法九条はわたしたちの宝』の思いとつなげ、『子どもたちに平和な明日』をなんとしても手わたしたいのです。

嶋さな江(保育九条の会)

東久留米「九条の会」3周年記念のつどい

◇平和トークとコカリナコンサート

4月26日（土）午後、中央公民館にて「東久留米九条の会・3周年のつどい」を開催し、約260名が参加しました。

つどいは、5月4日の「9条世界会議」のプレイベントとして、市内在住の外国人による「平和トーク」と黒坂黒太郎・矢口周美さんによるコカリナコンサート」で行いました。

「平和トーク」は今まで行ったことのない新しい試みで、参加した外国人の平和を望む自然な発言に私たちも励まされました。聞いていた参加者からは、「とてもいい企画だった」という声が多数寄せられました。自分たちの市で、充実した自主企画ができたことについては、実行委員が力を合わせた成果といえます。（別掲の記事をご覧ください）

2部の「コカリナコンサート」は、近年、北京やウィーンなどに招致され、内外で活躍しているお二人。内容のある豊かな演奏に、会場からは一曲終わるごとにためいきが聞こえてきました。「はじめて聞いたが、すばらしくて感動しました。多くの人に聞かせてあげたかった」という声が寄せられました。

（大野）

◇「平和トーク」に取り組んで

「9条世界会議に呼応して東久留米でもミニ世界会議を開きませんか」――昨年一二月の東久留米「九条の会」世話人会で私が提案したら、キョトンとした人もいたが、大方の賛同を得た。

これを提案した動機は、東久留米市に住む外国の人と「平和」について語り合うことで、私たちの運動が世界とつながっていることを市民にアピールできるのではないかと思ったからだ。

実行委員会で取り組み始めたところ、「近所にコスタリカの人がいる」「スイス生まれでアメリカから来た人を知っている」――実行委員から次々に名前があがり、予想外にスムースに人選が進んだ。韓国の人もぜひと思い、紹介した委員と一緒にお会いしたが、勤務先の関係で参加できないとのこと、残念であった。市民の中から戦時中を生きた人と戦争体験のない若者にも参加していただいた。

なりゆき上、私が司会をすることになった。みんな平和運動家でもない普通の人だったので、どんな意見を持っているのか事前に知りたいと思い、紹介した委員と一緒にインタビューした。

「戦争やむなし」という人がいてもいいではないか、と実行委員会で話し合っていたので、誘導質問はせず、相手が話すままに聞き、メモを取った。ところが、期せずして「平和な日本で暮らしたかった」「日本はもっと世界に平和を訴えるべきだ」などという声が返ってきて、私は胸を熱くした。

みんな饒舌だったので、本番では一人五分の時間枠からはみ出すおそれがあった。そこで当日はメモをもとに一問一答形式でトークを進めた。会場からの発言も予定したが、時間をオーバーしたため、やむなくカット、私が用意した結語も話す時間がなかった。

出演者のみなさんには話し足りない人もいたようだが、私たちが事前に聞いていた内容のポイントは出ていて、良かったと思う。会場のアンケートもおおむね好評で、ホッとした。

外国の人が平和について、しっかりした意見を持っていることに刺激された参加者が多かったのではないかと思う。

（矢倉久泰）

◆9条世界会議に参加して

「日本の九条」から「世界の九条」へ

五月四日に開かれた『9条世界会議』全体会。七千人収容の幕張メッセに、一万二千人詰め込み、それでも入場できなかった約三千人と共に、平和憲法九条への熱い思いで埋め尽くされました。

三部構成で行われた内容は、講演、合唱、歌、ダンス、対談、コンサートと多彩です。講演者、発言者の多くは、外国人で、彼らの英語と通訳者の日本語が、大きな会場に響き渡ります。「戦争の本当の姿は残虐と人殺しを合法化するもの」「九条の精神は尊い平和の象徴である」・・。

国や立場が違っても平和を願う心はひとつ。「九条を世界の憲法にしよう」と高らかに宣言する場となりました。

印象深かったのは「ねがい」という歌です。外国の人が母国語で口ずさむように歌いました。広島の中学生が発信した平和の詩に曲がつけられたもので、今では30カ国36言語に訳され、世界中の人々に歌われているそうです。

九条を守る運動は、人類と地球の平和を現実化する道につながっている。もう一歩足を踏み出す元気をもらいました。

（富樫智子）

9条世界会議バスツアー顛末記

朝10時に東久留米を出発、午後1時過ぎには会場に着きました。でも、あふれる人に入場をあきらめ、急遽行き先を変更、第五福竜丸に向けて出発となりました。

バスで一路夢の島に向かったのですが、到着は閉館5分前。時間オーバーにもかかわらず説明まで受け、しっかりと見学させていただきました。その後は芝生の広場で、コスタリカのトレホス氏（平和トークにも出演）の生演奏と、合唱までできて、思わぬ満足を得られました。

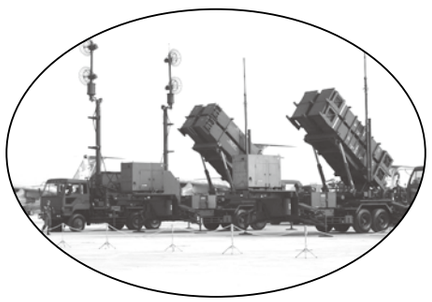
参加者は9条世界会議に入場できなかったことに不満はあっても、あふれる人々の数に力を得られたようでした。

（大山と）

◆南部九条の会　学習会

ペトリオットミサイル・ＰＡＣ３配備は誰のため？

南部九条の会は５月11日南部地域センターで題記の学習会を開きました。講師は日本平和委員会の平山武久さんです。市内各地から45人の方に参加していただきました。



航空自衛隊の入間基地に配備されたＰＡＣ３

ペトリオット、ＰＡＣ３などあまりなじみのない言葉ですが、昨年入間の航空自衛隊を皮切りに首都圏４ケ所の基地に配備されたミサイルシステムなのです。発射されたミサイルを着地点近くで迎撃するのがこのミサイルで、大気圏外の上空で撃墜するのがイージス艦搭載のＳＭ３ミサイルです。共に米国のミサイル防衛システム（ＭＤ）に組み込まれ、在日米軍基地および米国本土防衛の一翼となっていることが指摘されました。

米国製のペトリオット、イージスシステムにはこれまで７０００億円が投入され、今後も国内でのシステムの増設や、米国との共同研究開発にも多額の費用が見積もられているということです。

（高橋）

◆「保育９条の会」１周年記念のつどい

「いのちと平和のコンサート」を終えて

「夢を持って未来に生きる子どもたちに戦争はいらない」「子育てに関わるすべての人たちと腕を組んで、小さなつぶやきも大事にしていきたい」と声をあげてから早や一年。

５月25日は、昼には大雨もやんで、親子が次々に来てくださいました。会場には、ぎっしり120名が集い、平和メッセージも61名が書いてくれました。「一人ひとりの命はみな同じ、みんなで大切にしよう」「安心して子育てができる環境を」「憲法９条があるという事実が全世界へのメッセージです。殺されるのも殺すのもイヤだからね」「子どもたちの笑顔永遠に」など。文字は書けないけど、絵を描いてくれた子どもたちもたくさんでした。

二本松さんのギターによる歌とゲーム、赤ちゃんから幼児、ヤンパパ・ママ、じーじ、ばーばまで熱気爆発。こんぺいとうの歌。「子どもにもわかる９条のはなし」。そして、キラキラ衣裳のピースマン登場。８月の合研のお誘いもあり、盛りだくさんの一周年のつどいでした。

（保育９条の会　大野さ）

◆「小山・幸町九条の会」設立される

四月六日中央図書館で「小山・幸町九条の会」設立の集いが開かれ、五十名が参加しました。オカリナ演奏でオープニング。準備会の市村さんが経過報告と設立後の活動、世話人などについて提案。

記念公演は立正大学教授の金子勝氏が「映画『日本の青空』と憲法」と題して市の恩師である鈴木安蔵のことも交えて話され、会場からの質問も活発に出されました。出身地のお国言葉による憲法朗読や詩の朗読なども披露され、楽しい会となりました。

（鈴木）

お知らせ

全国九条の会

「九条の会」事務局主催学習会

◇テーマ「名古屋高裁判決と派兵恒久法」
◇９月13日（土）午後１時30分～４時
◇会場　星陵会館（地下鉄・永田町下車）
◇講師　小林武（愛知大学教授）
　半田滋（東京新聞編集委員）
　渡辺治（一橋大学教授）
◇参加費　１０００円

第３回「九条の会」全国交流集会

◇11月24日（月・休日）
◇午前10時30分から（開場10時）
◇会場　日本教育会館（東京・千代田区一ツ橋）

東久留米・反核平和実行委員会

原爆平和写真展

◇７月18日（金）～20（日）
◇東久留米市中央公民館ロビー

夏の市民平和行事

◇８月２日（土）午後２時～
◇東久留米市「市民プラザ・ホール」

クラシックミニコンサート＆市民による平和朗読劇

―沖縄「南風の吹く日」―

私たちは
真相を知らずに
戦場に出て
行きました
戦争は
命ある
あらゆるものを殺す
むごいものです

平和行進

◇７月21日（月）午前10時30分～
◇イトーヨーカドー（本町）前公園から

平和学習会・団結式

◇７月24日（木）午後７時から
◇東久留米市中央公民館会議室

リレー投稿◆「私の戦時下」

教育と九条

サイタ　サイタ　サクラガ　サイタ
（男はパッと咲いてパッと散れ）
コイコイ　シロコイ
（日本の国を　広めろ　取れ取れ）
ススメ　ススメ　ヘイタイ　ススメ
（敵を作っても侵略せよ）

此れが文部省初等科、国語読本教科書である。七十数年前の事、今でも頭のすみに残っている。

アッツ島　マキン　タウワ　クエゼリン
ウオット　サイパン　テニアン　グアム
ベリリウ島等々、又大陸で、ニューギニヤ　インパール　沖縄　玉砕というきれい事ではなく、全滅、皆殺され、である。涙の実態である。戦陣訓　生きて虜囚の辱しめを受けず　その元凶が、戦後ＭＰが戦犯として逮捕に行った時ピストルの音がした。ふみ込むと死にいたらない処をうちたおれていた。後に回復した。軍人ならどこをうてば死ぬか知っているはず。自ら虜囚となり後死刑になる。

我ら学徒兵、自ら志願したとは言え、あまりにも思い出すとつらい。各家庭から、鍋釜、お寺の鐘まで供出し、食べ物のない所で戦わされた。その兵がなんと差別されていた。甲種、乙種、丙種とお米の配給まで差別がありました。敵性の英語は使ってはならない、軍国少年に賜ったのは、戦後一億総ざんげ、さてそれからが大変。

閑話休題、子供と年寄りを大切に。戦前、戦中、戦後苦労した年寄りを大切にしなければいけない。国民の生命と財産を守る防衛省、どうぞイージス艦、クラスター爆弾、ミサイルの費用を子供と老人達へ。米国へ思いやりするなら足元の沖縄へ、日本人へ。九条を世界の人々へ

合掌

（ひばりが丘団地　津田良市）

《平和を考える本》

『ヒロシマのピアノ』

指田和子・文／坪谷令子・絵
（文研出版・１６００円＋税）

今年４月、東久留米「九条の会」では、設立３周年を祝う記念行事の一環として、黒坂黒太郎氏のコカリナ演奏を聴かせていただいた。その中に、広島で被爆した木で作られたコカリナもあったが、それは、かすれたような哀調を帯びた音色だった。

本書の主人公であるピアノは、爆心地から程近い地点で被爆したが、ピアノ調律師・矢川さんの手によって、60年の歳月を経て音を取り戻すことができた。蘇ったピアノは今、矢川さんとともに日本中を旅してまわっている。平和の大切さを伝えるために。『被爆ピアノ　平和コンサート』と銘打って開かれるピアノコンサートは、もう200回を超えた。この７月26日には、本書出版を記念して、神戸市勤労会館でコンサートが催される。被爆コカリナと同じように、少しかすれたような音色で聴衆を魅了し、さまざまな思いを呼び起こすことであろう。